

表-6.1.1(14) 南側仮設調整池の必要容量及び場内確保容量
10年確率規模 (m³)

年次	短期降雨 強度による	長期降雨 強度による
2年次	—	—
3年次	—	—
4年次	—	—
5年次	70,466	79,330
6年次	71,271	80,341
最大値	71,271	80,341

年次	南側仮設調整池容量		工事中の必要容量		工事中 確保容量
	有効容量	満杯容量	必要容量	場内確保	
	①	②	③	④=①-③	⑤=②+④
2年次	—	—	—	—	—
3年次	—	—	—	—	—
4年次	—	—	—	—	—
5年次	41,100	53,900	79,400	(38,300)	92,200
6年次	41,100	53,900	80,400	(39,300)	93,200

備考：有効容量：南側仮設調整池の有効容量
 満杯容量：有効容量に余裕高分を見込んだ容量
 必要容量：工事中の必要容量
 場内確保：工事中、場内に確保する容量
 工事中確保容量：工事中の全確保容量（満杯容量+場内確保）

南側仮設調整池は、空港南側の付替国道と空港本体に囲まれた部分で、轟川側へ流出する雨水排水処理を行う。池底は、掘削面をそのまま利用し、浸透処理を基本とするが、浸透機能の低いトムル層が分布していることから、機械処理設備を設置して工事中の雨水処理を行うこととする。

機械処理設備の概略設備配置は図-6.1.1(11)に示すとおりであり、機械処理能力は、現況の地下水位及び地形が傾斜していること等を勘案し、設定される施設配置条件を有効水深2m、浸透面積20,000m²と設定し、機械処理能力0.1m³/s、0.2m³/s、0.3m³/sを比較検討した結果、0.1m³/sに決定した。